

特集

進む! 安全・安心のまちづくり

4月1日の本稼働に向けて「新消防庁舎」が始動します



岡谷市の6つの重要施策の一つに位置付け、平成24年度に事業着手いたしました「岡谷市新消防庁舎建設事業」は、約3年の歳月を経て昨年10月23日に当初からの計画どおり無事に竣工、引取りを行うことができました。

建設工事中は、近隣住民の皆様にはご不便、ご迷惑をお掛けし、また、消防施設整備基金へも市民の皆様をはじめ大勢の皆様のご協力をいただき、物心両面からのご支援に心から感謝申し上げます。

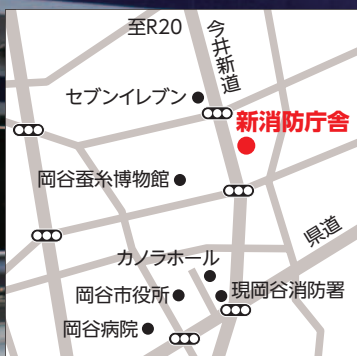
新消防庁舎は、大規模な地震が発生しても、平時と変わらぬ機能を発揮できるよう堅牢であるとともに、防災・減災の拠点施設として高機能な庁舎とすることを目標に設計し、中間層免震構造を採用するなど、関係者の想いがすべて実現された庁舎となりました。

また、諏訪広域連合で進めている「消防指令センター整備事業」は、現在、新消防庁舎内の機器の設置が済み、運用開始に備えた機器の調整と職員による取扱訓練の段階に入っており、2月下旬の仮運用に備えています。

本年4月には新庁舎の公用開始とともに、諏訪広域消防の一元化による新体制も同時にスタートいたします。新消防庁舎を拠点とした常備消防体制の強化は、岡谷市民の安全で安心な暮らしの確保はもとより、諏訪圏域に住む全ての住民の皆様の生命、身体、財産を守るという、消防の重要な任務の遂行につながるものと確信をしております。

今後も消防団の充実・強化や消防水利等の消防施設の整備を継続的に進め、市民の皆様の安全、安心な暮らしの確保に取り組んでまいりますので、より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

岡谷市長 今井 竜五



わたしたちの消防署 ここが変わります!

諏訪広域消防一元化の本部に…



諏訪広域連合は、諏訪地域6市町村の消防体制のいっそうの強化・充実をめざし、本年4月1日から「諏訪広域消防体制の一元化」をスタート。岡谷消防署の移転先でもある新消防庁舎を本部とし、より質の高い消防サービスの提供を図っていきます。そのため、今月末から、新庁舎にて一部仮運用が始まります。

新庁舎

消防指令センター【仮運用開始】

…119番通報を一括処理

●現在、各消防署で受けている119番（火災の発生を知らせたり、救助や救急車を要請する）通報を、2月26日から「消防指令センター」で受信します。諏訪地域全域からの119番をここで受け付け、各消防署・分署へ、指令通信を行っていきます（4月1日から正式に業務を開始します）。



現庁舎

●現事務系統（岡谷市消防団の事務、予防業務、消防施設事務を担当する岡谷消防署庶務課、岡谷市総務部消防課）は、3月末まで現庁舎に残ります。夜間、休日、祭日は閉庁となりますのでご注意ください。新年度からは、新庁舎での業務となります。

市外の消防署と分署

●岡谷以外の広域消防の消防署・分署の位置や名称は、4月1日以降も変わりませんが、現在各消防署で行っている事務を新年度から消防本部に集約し、効率アップに努めます。

出動体制

●岡谷市内でこれまでに発生した火災の初期対応は、岡谷消防署から消火隊2隊と救助隊1隊の計3隊が出動していましたが、一元化後には、岡谷のほか諏訪、下諏訪消防署から、指揮隊、消火隊、救助隊、救急隊など6隊が出動する計画で、災害初期の活動を充実強化します。

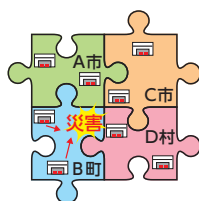
●消防指令センターでは、すべての消防車両の位置をリアルタイムに管理。災害発生現場に最も近い消防車両を出動させることにより、現場到着までの時間短縮と的確な消防車両の選択や編成を行い、被害の軽減や救命率の向上を図ります。

各種業務を専門化・高度化

●建築物の消防用設備や危険物を保有する施設を、法的に規制する事務を、消防本部に集約、専門化します。

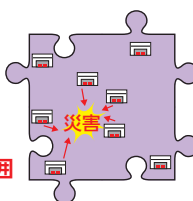
●予防査察（立入検査）や火災の原因調査などは消

【現在】
各消防署が
市町村区域
内だけ出動



【新体制】
より近い消防
署から必要な
数の消防隊が
出動

諏訪全域が出動範囲



消防団・関係団体との連携

●防本部で統括し、火災予防体制の強化と、業務の質の向上を図ります。

●救急救命士の適正な配置により、救急・救命体制をより高度化します。

●特殊な救助災害（放射線事故や生物・化学災害）にも対応できるよう、高度な技術・資機材を備えた「特別救助隊」を新たに配置し、救助業務を高度化します。



〈消防団〉

●消防団の事務は、今までどおり各消防署で行いますが、定期的な会議や訓練などを通じ、災害現場で適切な協力がしあえるよう、情報共有、連携強化を図ります。

〈関係団体〉

●消防協力団体などにかかわる事務も、今までどおり各消防署で行い、協力して安全、安心なまちづくりを推進します。

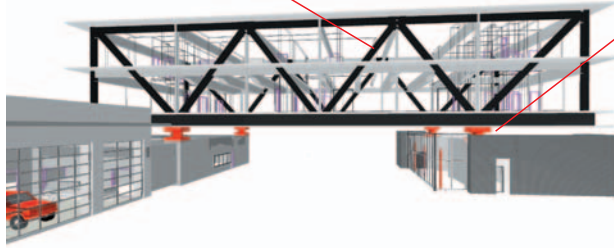
●医療機関との連携は、今までの体制を引き続き継続します。また、医療機関の理解と協力を得て、病院に到着するまでの救急体制の充実を図ります。



構 造

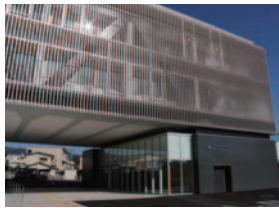
ブレース構造

2・3階の構造を支える鉄骨の柱を、建物の外周に設置。柱の少ない広い室内空間を確保し、自由な間取りが可能となっています。



遮光ルーバー

西日による熱負荷を和らげるために、外壁面にアルミ製のルーバーを設けました。西向き室内への日差しを約25%抑えるとともに、建物の外観を整えています。



中間層免震構造

1階と2階の間に「免震階」を設ける「中間層免震構造」の採用により、大きな地震発生時にも、災害対応の中枢となる消防指令センターの精巧な機材を守り、庁舎の機能を確保します。「基礎免震構造」に比べ、工期の短縮や建築コストの削減を図ることができ、1階部分に、広場として活用できるピロティが誕生したことも、大きな特徴です。



揺れを止めるための制震装置
鋼製ダンパー (左)・油圧ダンパー (右)



新消防庁舎は、 こんな施設です！

1階

食堂・厨房・休憩室

勤務中の食事、休憩のためのスペース。厨房設備が整えられています。



エントランス・ロビー

ガラス張りの明るいエントランスが、みなさんをお迎えします。車いすで利用できる来庁者用エレベーターも設置し、バリアフリーを実現しました。岡谷市消防協会寄贈の特注ケースには、市消防団のまといなどを展示しています。



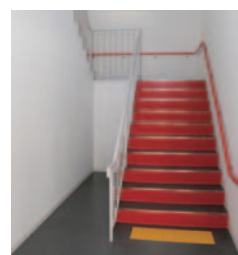
多目的トイレ

乳幼児用のオムツ交換台はもちろん、車いすやオストメイト対応(人工肛門のパウチ洗浄などもできる)の設備を備えた、どなたにも使いやすいトイレです。



耐震性貯水槽

60tの耐震性貯水槽を埋設し、震災時の火災に備えています。



災害の大型化や複雑化が顕著となったいま、強固な消防体制の構築は、安全・安心な暮らしのための必須条件。災害に強いまちへ…それは、わたしたちの切なる願いでもあります。待ち望んでいた新消防庁舎の完成で、消防機能は大幅アップ。おかやのまちが、わたしたちのくらしが、いっそう元気に輝きを増す…そんな期待に胸ふくらみます。施設活用に先がけて、まずはその全貌を眺めてみましょう。



階段

消防カラーの赤色がアクセント。施設見学に訪れる子どもたちに合わせ、低い手すりも設けました。1階と2階の間は段数が多く、手すり階段が上下で分断されているなど、中間層免震構造の特徴も見ることができます。

更衣室

消防本部職員の更衣室と、通信指令課職員の当直者用仮眠室が併設されています。女性職員専用スペースも設けられました。

消防長室

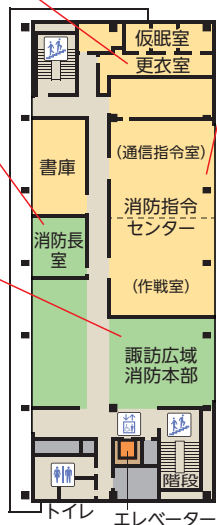
広域消防を統括する消防長の専用スペースです。

消防本部事務室

4月から広域消防本部として、総務、消防、予防、通信指令の4課が執務します。



3階



消防指令センター

(通信指令室)

6市町村の119番通報を一括で受信し、各消防署へ出動指令を出す中枢セクション。指令台のモニターには、通報発進地点付近の地図や映像、消防車両の出動状況を掌握する位置情報などが表示されます。

(作戦室)

災害時には、通信指令室の情報を集約し、救助プランなどの方針を検討します。将来、通信指令装置の入れ替えにも対応できるよう、通信指令室と同じ広さとなっていて、ガラス越しに指令台を見学できます。



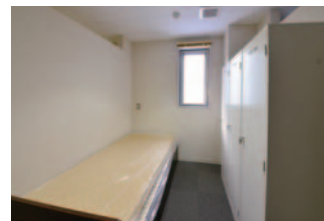
出動準備室

防火衣などを着用し、出動指令の確認を行います。県外の災害地への緊急消防援助隊としての出動にも備えて、近年は個人装備も増加、多様な業務に対応するため、ロッカーの充実も図りました。



仮眠室

当直隊が交代で使います。

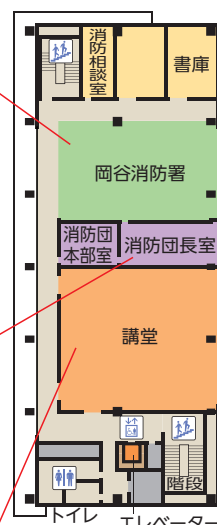


消防署事務室

3つの当直隊が交代で勤務するため、共用で使用するシステムデスクを採用。スペースの有効利用を図りました。

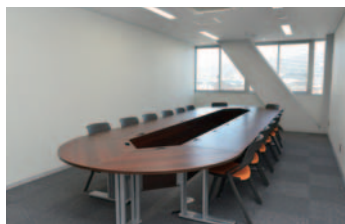


2階



消防団本部室・消防団長室

消防署との連携を意識し、隣室に配置。消防団幹部の会議が開催できるよう、会議用の机を備えています。



講堂

120名収容の広いスペースにより、広域消防で行う各種講習会、会議に対応。スペースを分ける可動式の間仕切り壁は、消防音楽隊、消防ラッパ隊の使用に際し、防音効果も発揮します。



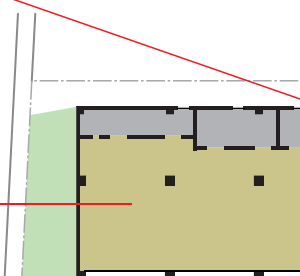
車庫

オーバースライダーシャッターは、透明のアクリル製。消防車両が、消防署の存在を常時アピール、住民に安心感をお届けします。車庫内には、車両整備のための排水溝や、換気装置を完備。屋根には10kWhの太陽電池を設置し、自家発電により、庁舎の電気を一部まかないます。



災害用仮設トイレマンホール

震災時の下水道管の破損に備え、住民が使用できる災害用仮設トイレマンホールを設置しました。



今井新道

来庁舎用歩道

災害用仮設トイレマンホール

